「ことばのちから」活用シート　活用事例

【池田市立ほそごう学園】

| シート名 | インタビューをもとに、友だちを紹介しよう | 基になった活用シート | 話聞５質問じょうずになろう話聞６インタビュー名人になろう話聞７その生き物がすきなわけ |
| --- | --- | --- | --- |
| 学　年 | ７年生（中１） | 教　科 | 国語 | 時　期 | ６　月 |
| 活用場面 | 授　　業 | 配当時間 | ２時間 |
| 目　標 | 閉じた質問と開いた質問の２種類があることを理解したうえで、相手のことをよりたくさん知ることができる質問をする。 |
| 工夫した点 | ●質問には、答えが１つの閉じた質問と様々な答えがある「開いた質問」があることに気づかせる。その上で、自分が相手にどのような質問をしたら話が広がったり、より深く相手のことを知ることができるのかを考えられるよう、スモールステップのワークシートにした。●もとのワークシートは小学生を対象にしているので、中学生で活用する際に、質問そのものを考えさせるような、ものにした。●「なぜ～ですか。」「～な理由はなんですか。」など、「問い」の文を考えることが中学生でも苦手な生徒はいるので、「質問のカタチ」を守ってワークシートに記入するよう指示をした。●質問をもとに、相手から聞きだした情報を整理して伝えるという最後のゴールを設定して、「質問の工夫」の必然性を持たせた。 |
| 次回への改善点 | ●質問の内容が、相手のことよりも、相手が話す内容、（例えば、テレビ番組ならその番組の放映時間や、出演者など）を詳しく聞き取ってしまっていた。●実際のインタビュー活動の前に、「閉じた質問」「開いた質問」の使い分けだけではなく、調べればわかること、直接本人にインタビューしなければわからないこと・・・などの違いにも注目させる必要がある。 |
| 子どもの様子（発言、ノート、板書、解答例、写真　等）●あらかじめ準備していた質問をはじめはしていたが、時間が余ったり、相手の答え次第で準備していた質問が使えなかったりしたようだ。●ただ、臨機応変に対応する場面もあり、楽しんで相手の事を知ろうと質問をしていた。普段の会話ではなく、「質問」を意識させていたので、「～ですか。」「それはなぜですか。」と丁寧に「問い」のかたちで質問をしていた。●ふりかえりに、『「開いた質問」をすることで、相手からいろんなことが聞きだせる。一方、閉じた質問は、すぐに話が終わってしまった。』と書いた子がいて、実際にインタビューをすることで、質問の「質」について気付くことがあったようだ。●「話すこと」は「型」があると、スピーチでも発表でも格段に質が上がる。内容も大切であるが、言葉の使い方（質問、意見、反論など）を「型」として教えて、使えるようにすることの意味は大きいと感じているので、このようなワークシートで、「型」を伝えていくことは大切だと感じた。 |
| 活用シート（改良版）別紙添付＜４つのファイル画像で貼り付ける＞ |